

## 命を感じる

社会福祉法人長尾会 第2長尾保育園（大阪府枚方市） [ 3、5 歳児 ]

### < 命に繋がる気付きの事例（ナス） 3 歳児 >

#### < ナスの色 >

苗を植える時に「だってな、なすびって紫やねん。ほんでな、この葉っぱもなすびと同じ紫やねん」と、葉をよく観察し、自分なりに考えて答えを見つけていた。その後花が咲くと、「紫。なすびは葉っぱも木のとも花も紫や」「トマトは赤いのに花は黄色やったな。何でかな？」「キュウリも緑のお花咲くんちゃう？」と、興味をもって話し合う。



#### < ナスはどこからお水飲む？ >

「なすびさん水飲んでるかなあ」「なすびに水かけるんじゃないで」「だってお水飲んでもらわないと！」「なすびさんはお口ないってば!!」「じゃあどこからお水飲むん？」「え～と...葉っぱ？木？」と話しているのを聞いて、他の子どもが、「足やで！土の中！」「何で知ってるん？」「だってな、さくらさんたちも先生も葉っぱじゃなくて土にかけてるやん！」と話す。



#### < 何で、チクチクなんやろ？ >

ナスが大きくなったので、給食で食べるために収穫する。どれくらいの大きさのナスを採るといいのか考えながら、よく見てそっと持ち、慎重にハサミで切る。収穫を喜びながらナスをクルクル回して見ていると、「ここ、チクチクして痛いで」とヘタの部分を指さして言う。「何でこんなにチクチクなんやろ...」と他のナスも見比べる。「あ！穴空いてる！虫さんに食べられたんや！」「こっちは食べられてないな」「チクチクしてんのか、虫さんに食べられたくないからちゃう？」「うん、チクチクしてたら虫さん痛くて食べられへんもん」とやりとりをする。



### < 命や食べ物について考える事例（ケラ） 5 歳児 >

#### < 飼おう >

4 歳児の時から興味をもっていたケラを見つけた子どもたちが、調べて飼えることを知り、そのことをクラスで発表し、話し合って飼うことにする。「ミミズ食べるねんて」「潜るから、土たくさん入れないと」「どのくらい土入れたら潜れるかな？」と相談しながら、飼育の準備をして飼う。



#### < 何で死んだんかな？ >

ある朝、カゴを覗いて「ケラが死んでる！」と驚く。みんなで「何で死んだんかな？」「暑かったんかな...」「ミミズ大きすぎたんちゃう？」「カゴが小さすぎて潜れなかったのかな...」などと考え合う。話し合いの結果、ミミズが大きすぎたと思う子どもたちは小さめのミミズをカゴに入れたり、エサ用としてカゴを分けて少しずつ餌を与えたりするなどの工夫をしながら、世話をするようになる。



#### < ケラがケラを食べる >

ある日、飼っているケラが、共食いされているのを見付ける。「何で同じ大きさなのに、食べられるんかな？」「ミミズが嫌やったんかな...」「ケンカしたんかな...」と虫かごを覗き、じっと観察して「なぜ死んだのか？」話し合う。その後、「食べられるものより食べるものが強い」ということがクラスで話題になる。アリがケラを食べているのを見付け、更に興味を深める。



### みどころ

“水遣り”という世話を通して、3 歳児なりに「ナスは水をどこから飲むのか？」「何故、チクチクがあるのか？」と、生長や命に繋がることに気付き疑問をもっています。このような体験を重ねることで、5 歳児は、「自分たちで飼育する」ということが基盤にあり、生き物と向き合っています。命を感じたことで「死」についても考え合っています。生命を大切に思ったり生き物を思いやったり、自然への畏敬の念をもったりする「科学する心」の育ちに結び付く体験を、この事例から捉えることができます。